

オープンラテン部門出場

押川慧吾・和田知世組

この度ブラックプールへ派遣していただいた押川、和田組です。

まずは、このような貴重な機会をいただいたこと、厚くお礼申し上げます。

今回は初めての海外遠征という事で、楽しみ半分、不安半分という状況でした。

ただ、海外遠征慣れをしている名越組がいた事で、大変救われました。

お互い社会人という事で、長期休暇を取る事が厳しかった為アマチュアラテン本戦のみ出場してきました。

●試合手続きの違い

出場する試合を決めてから出場手続きをするにあたって、まず驚いたことが、ブラックプールへのエントリー方式が日本と異なり様々な方法で出来、またエントリー費がかからない代わりに観客と同じように入場券を事前に買っておくなど、出発前から日本との違いに驚かされました。

●現地の雰囲気

私達は金曜の深夜便で日本を発ち土曜のお昼にマンチェスター空港に着きました。

マンチェスター空港からは電車で、2時間ほどでブラックプール北駅へ到着しました。

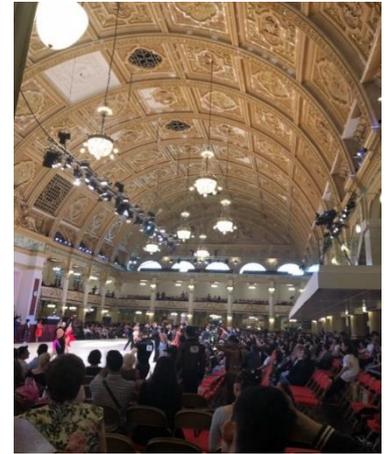


小さなお店が並んだ街並みを抜けるとウィンターガーデンと書かれた入口が。

ただ正直古いショッピングセンターみたいな外観で、このどこにあの格式高いホールがあるんだろというような外観でした。

チケットを渡して、いざ会場に入ると外観からは想像出来ない別世界が広がっていました。

会場では日本でよく聞く曲が流れているのですが、正直日本で聞くと乗れないと思う曲が、このホールで聞くとカッコ良く聞こえ、かつ選手一人一人が様々な表現をされており世界のレベルに圧倒されました。



ホールでは、試合が行われてない時間帯はホールで練習出来、試合中もホールの隣が練習場になっていたのので、いつでも練習する事が出来たのですが、選手層と選手が生み出す空気が日本と違いすぎて一瞬不安になりました。

ただ2日後に迫った試合を考え、この空気を利用して、この一分一秒でも成長してやるという気持ちで練習しました。

●現地の練習場の雰囲気

翌日は滞在していたホテルの地下が無料練習場として8:00~21:00まで解放されていたので朝8時から練習場へ。



このフロアサイズは小さく、ここで練習するの？という場所だったのですが、トップ選手が、フロア外の絨毯に、はみ出てもバランスを崩さずにガンガン踊っている姿を見ていつも会場のコンディションを言い訳にできてしまっていた自分が恥ずかしくなりました。この練習場は、沢山の刺激が受けられるという事で、試合後も毎日通いつめていました。

●試合

アマチュア本戦は、予選の予選会というのがあり、あまりにも人数が多いため、前半組と後半組に時間が分かれて行われました。

また試合の受付も日本と大きく異なりました。

事前に自分達でパンフレットで背番号を確認して、背番号を受付で言わないと背番号がもらえません。

また背番号が、破けやすい普通の紙で、かつ安全ピンも自分達で用意しておく必要がありました。

日本は、背番号もいい紙で、安全ピンなども用意してくれており恵まれていると感じました。

いざ試合が始まると、どのヒートを見ても日本では、見る事のないレベルの高い人ばかりだったため自分達の時は、出せる力を全て出し尽くす気持ちで踊りました。

結果は惨敗でしたが日本だと感じられないものを感じ

じ、試合後こういう事をしてみたいというアイデア



がどんどん溢れ出て来て、ブラックプールマジックというのを実感する事が出来ました。

●最後に

今はネット社会なので沢山のダンス情報が得られる時代ではありますが、正直今回来て動画と生は全く異なるものだというのも実感しました。

音楽一つとっても、あの場所で聞くものは、全く同じ曲でも異なり、また動画では、何も感じなかった動作が、生で観ると、目を奪われてしまったり、正直もっと早くにこれを見て知っておきたかったと思う瞬間が何度もありました。

でも、知らずに終わるのではなく今これを知る事が出来、活かす事ができる環境にあることに本当に幸せに感じております。

今回いただいた機会を無駄にしないように、世界の踊りに一歩でも近づけるように頑張ります。

この度は、貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。